

## 第2回(仮称)苫小牧市民ホールWG会議

### 【展示・窓口WG】議事要旨

日時：平成28年8月22日（月） 13：30～15：15

場所：本庁舎9階 会議室

出席：委員3名、事務局3名、北大2名

議題 展示・窓口機能に関するアイデア及び活動事例について

#### ■ 窓口機能として求められること

#### ■ 苫小牧市内の活動が一度に把握できる情報拠点

- ・ JR 苫小牧駅の改札近くの通路に、ヨガや日本舞踊の教室など様々な活動のチラシが貼ってある。JRに許可を取れば個人単位で自由に利用可能（一部有料の場所あり）。
- ・ スーパーの掲示板でも、少年野球やサッカー教室のチラシを見かける。
- ・ 現状では、情報発信の場（掲示板など）が分散している。
- ・ 苫小牧で行われている活動を、WEBサイトのようなかたちで一度に把握できるような場が欲しい。独自のスマートフォンアプリを開発してもよいのではないか。
- ・ 第2回検討委員会でも話題になったが、情報検索のかたちとして、サーチングとブラウジングの2つがある。サーチングの強化として Web 等の活用が考えられる。複合施設においては、特に目的は無くとも掲示板を眺めるだけで幅広い情報を得られるようなブラウジングの可能性を考えられるのではないか。
- ・ 仕事が欲しい場合はハローワークに行くように、「〇〇を知りたいければ□□へ」というキャッチフレーズがあればよい。

#### ■ ある程度フリーに使える広報の場

- ・ サークル活動の広報をしたくても、コミュニティセンターのような施設では苫小牧市や教育委員会の後援が無ければチラシを貼る許可が下りなかったり、施設を利用する団体に限定されていたりする。
- ・ 施設に関係なく、活動拠点がどこであれ比較的容易にチラシを貼れる場が求められている。一方、上記の JR や教育委員会のように広報内容のチェック・管理体制も考慮する必要がある。
- ・ あくまでも市民のためのホールなので、あまりチェック機能を強くしすぎないようにしたい。初年度はある程度フリーな状態からスタートしてもよいのではないか。
- ・ 広報を希望する団体に、開催日時や目的などがシンプルに記載された、あるフォーマットに沿った書類を提出してもらうことで、一定の信頼を確保できる。

- ・ NPO の場合、団体情報のデータベースが書類や WEB で閲覧できる。市民活動やサークルなどの情報も、責任者を明確にした上で、同様のかたちでストックできるシステムがあるとよい。
- ・ 活動に際しトラブルが発生した場合、当事者間の仲裁ができる窓口機能が必要。

## ■ コラボレーションを促進する仲介役

- ・ 様々な団体や個人がコラボレーションすることで、活動の幅が広がる。アオーレ長岡には2種類の NPO が存在し、市民活動をサポートするものと施設運営をするものがある。窓口機能の理想としては、日頃の相談から潜在的なニーズを受け止め、団体や個人をマッチングするようなことができるとよい。
- ・ 苫小牧市の商業振興課では、店舗お見合いの取組をしている。例えば、ハンドメイドの商品を販売する場所をもたない場合、市が仲介となって施設所有者などと連絡を取り合うことで、個人が店を構えるサポートをしている。
- ・ ワークショップ等の企画を計画する組織と、運営に専念する組織の2種類が必要ではないか。自分たちの活動が広がらない・どうしたらよいか分からない場合に、他の団体や個人をマッチングしてもらえそうな窓口が欲しい。幅広い知識を持つ人材を具体的に挙げていく必要がある。
- ・ 広い分野に関わる窓口機能を一人でカバーすることは困難。例えば、リタイアした人のセカンドキャリアとして活用してもらったり、企画力のある若い人材を起用したりすることが考えられる。
- ・ 窓口機能を担う人は、自ら活動を膨らませたいという意欲を持った目利き・キュレーター的存在が望ましい。コネクションのある人を見出し、展示の話を持ちかける姿勢が大切。外部に積極的に話を仕掛ける人と、企画の実行力のある人のどちらも必要。
- ・ 可児市では、様々なプロフェッショナルが関わり情報を発信するアウトリーチ活動を展開している。窓口をオープンにしても受け身の状態では何も起こらない。積極的に仕掛けていく必要がある。
- ・ 施設で日常的に活動している人の大部分は女性であり、男性の場合は奥さんに誘われないと行かないような人が多い。窓口には女性が適しているかもしれない。

## ■ コンシェルジュ・マイスター・アシスタント

- ・ 窓口は、相当な時間を割くことになるため、ボランティアでは成り立たない。
- ・ 例えば、シルバー人材センターは有料（ボランティア的料金）で仕事を請け負うが、元職人など自分の仕事にこだわりの強い人材が多い。専門分野があり、前向きな考えを持つ人が多いため、スタッフに適している人も多いと思う。
- ・ 千葉市科学館の事例では、大部分が無償で働くボランティアで成り立っており、意識の高い人が集まって主体的に活動している。ボランティアと一口に言っても様々なタイプ

が存在するため、漠然と募集するのではなく、意欲をくすぐるような具体的なかたちで募集したい。

- ・自腹を切っても行きたいと思えるような、夢中になれる施設となるのが理想。
- ・ボランティアという名称ではなく、マイスターのようなハートをくすぐる名称が望ましい。
- ・市民をアシストするという意味で、アシスタントはどうか。
- ・基本構想の際にアイデアが出ていたものとして、例えば苫小牧検定のような資格を設け、苫小牧について知識のあると認定された人を起用するのはどうか。または、一定の生涯学習講座を修了した人がマイスター、あるいはコンシェルジュと認定される仕組みがあってもよい。

## ■ 展示機能として求められること

### ■ 独自に活動している人を巻き込む

- ・知る人ぞ知る、精力的に活動している人を引っ張り出さないともったいない。以下は、その事例。

**事例 1**：着物のリメイクをしている。市民講座の依頼が来る程の腕前だが、全て断り独自に活動をしている。年 1 回自宅で開催する作品発表会では、小さな展示会と同等の規模の人が集まる。夫が陶芸をしており、指揮者の経験もあることから、ミニコンサートや展示会を行うこともある。苫小牧のカフェ・ダンデライオンで作成したリースなども展示している。自宅が展示会場のため、空間全体をコーディネートしており、客に出すお茶の食器類も全て陶芸作品を使用。

**事例 2**：夫と共にアトリエを構え、仕事の合間に手作り雑貨を制作。主にお祭り関係に出品しており、普段は個人個人が集まるかたちで活動している。

**事例 3**：ピースプロジェクト苫小牧の共同代表。年 1 回開催しているイマジコンコンサートにおいて、2014 年にペギー葉山、2015 年に加藤登紀子と共演の実績がある。この他、若い世代に戦争の悲惨さを伝える紙芝居活動も行っている。

さらに、6 年前から住吉コミュニティセンターや住吉泉町内会館を拠点として一人暮らしのお年寄りを対象としたおしゃべりサロンや歌声サークル（常時約 30 名、会員数は約 80 名）を主宰している。現在、苫小牧市内の各コミュニティセンターを拠点とする歌声サークルの代表と連携し、合同発表会を企画中。

**事例 4**：ラフターヨガ（笑いヨガ）に取り組んでいる。男女平等参画推進センターで教室を持っている他、自宅で書道教室を開いている。笑いは高齢化社会の中で注目されている要素であり、現在は笑いと言書を組み合わせた活動（笑いながら文字を書くなど）を試みている。

**事例 5**：着物リメイクの他、苫小牧菊花同好会の幹事長としても活動。菊づくりの技術伝承について憂慮しており、色々な角度から菊づくりに興味を持ってもらえる

ように精力的に活動している。

**事例6**：高齢者施設において姉妹で御琴の演奏会を開催。ケアマネージャーでもあるため、音を活かした介護活動に取り組んでいる。

**事例7**：個人で絵画を一千点以上所有する会社社長。倉庫で眠っている作品が多い。市内には絵画だけでなく、趣味で骨董品などを集めている個人もいると考えられ、是非そのような人を巻き込んだ展示を考えていきたい。

- ・新たな施設の役割として、自宅等で独自に活動している人に多くの市民がアクセスしやすくなるような仲介役、または施設を展示会場として使ってもらう（引っ張り出す）ことの2通りが考えられる。
- ・新たな施設が、幅広い話題を提供し、人が集まる施設となるためには、施設を展示会場として使ってもらうことが必要ではないか。独自に活動している人は、既に相当数のネットワークを保有している。単に窓口で紹介するだけでは現状以上の活動の展開が見込めない。
- ・自宅で展示する人は、空間自体にこだわりがある。例えば、施設の展示空間として、ホワイトキューブだけでなく北欧風やアジアン風のような特徴をもつブースがあると選択肢が増えるのでは。自分の作品に合わせて展示会場に手を加えられると面白い。
- ・一般的に、展示空間はプレーンなものが主流だが、苫小牧独自の施設となるためには、少し個性のある空間が考えられるかもしれない。

## ■ 体験型の動的な展示

- ・職業訓練センターで年1回開かれる技能祭では、親子でものづくり体験ができ、非常に人気がある。現状では工業労政課の事業だが、新たな施設でも同様の体験型展示ができるとよい。
- ・千葉市科学館では、地元企業と協力して子ども向けの体験型イベントを開催しており、リタイアした技術者が講師として活動している。新たな施設でも、近隣の教育機関などと連携して生徒の作品発表の場とすることが考えられる。市民の関心をくすぐるようなプログラムを展開したい。
- ・書道や写真の展示というと作品が壁に貼られている静的なイメージだが、同時に写真の撮り方教室や書道と笑いを組み合わせたワークショップなど動的なイベントと組み合わせることで、活動が広がっていくのではないか。施設に足を運び、見て聞いて実際に体験するという流れができるとよい。

## ■ 市民のコレクションを展示するためのサポート体制の構築

- ・いわゆる展示品だけではなく、個人所有の絵画を展示できる場を想定できる。一方で、個人の所有物を展示する際、展示物の性格に合わせてセキュリティの有無を考慮する必要がある。例えば、展示に係るサポートを誰が行うのか検討しなければいけない。施設

の職員なのか、もしくは市民組織が担うことも考えられる。

- ・個人のコレクションを展示する場合、運搬や管理の費用を全て個人で賄うとなると、非常に負担が大きい。フォロー体制の充実が肝要である。

#### ■ 質問・要望等

- ・フリースペースの活用例としてアスティ 45 ビルが挙げられているが、具体的な活動内容を知りたい。

#### ■ 次回に向けて

- ・次回はリピーターや日常の利用を促すアイデア・事例を中心に議論したい。今回あまり話題になっていなかったキーワードなので、意識して身近な事例を集めてきて頂きたい。
- ・事例を集める際、なるべくパンフレットやチラシ、写真など具体的な内容の分かる資料を提供していただきたい。
- ・今回話題になった事例や内容について、事務局でもなるべく先進事例などを収集するように努める。

#### ■ 今後のスケジュール

第3回目：9月 16日（金）13：30 ～@本庁舎2階21会議室

第4回目：10月18日（火）13：30 ～@本庁舎2階21会議室